



2D画像アマミノコギリクワガタ (*Prosopocoilus dissimilis elegans*) と少年

十島村唯一の交通手段フェリーとしま2は、村の各島を2泊3日で往復航海しています。船内移動博物館「島を旅する博物館」では、トカラ列島で近年発見された新種や天然記念物など、初公開を含む111点の標本・はく製と、解説パネル27枚、新規に作成したデジタルコンテンツを船内に展示しました。特にデジタル資料の展示により会場スペースに対しての展示点数が増えました。写真は、航海中、何度も展示物を見に来てくれた小宝島の少年です。クワガタムシのからだを熱心に観察していました。

登録完了のご報告とお礼

館長 山田島 崇文

令和6年5月7日、本館は鹿児島県第一号として博物館登録原簿に登録され、同7月12日文化庁から新博物館法に基づく登録博物館として九州管内では14番目に認可されました。ここに正式にご報告させていただきます。これは世界各地のICOM(国際博物館会議)に加盟する世界中の博物館と同等であると認められた結果といえます。そのため海外資料の輸入や希少野生動植物の個体譲渡、いわゆる美術品保証制度の適用や活用等が本館でできるようになりました。県立図書館内に博物館が発足して以来ちょうど満110年、新たなスタートラインに立ったご報告ができ、誠にうれしく存じます。その記念として、企画展「ジオパークに行こう!」、プラネタリウム春編星物語「お天道様の嫁」を一般公開いたし

ます。一方で宝山ホール4階には別館プラネタリウム室があります。今年度はこの別館の強化と天文分野の改革を推進してきました。40年ぶりに開始時刻を見直し、本館の科学教室や楽しい実験との連動を強化するため、本館～別館のルートを開発いたしました。次に県内生徒が作った優秀な童話からプラネタリウム星物語(アニメーション)を作成し、公開しました。さらに天文講座、写真展、H3ロケットのパブリックビューイングも行い、いずれも好評をいただきました。中にはSNSで3千件以上の評価を得たものもあります。加えて新看板の設置や県内施設で先駆けとなるキャッシュレス化の導入も行いました。これからも県立博物館は、本館・別館ともに高みを目指して進み続けます。

鹿博だよりに関する今年度の事業内容

○「多様性豊かな鹿児島県の自然遺産」収集保存事業（令和6年度実施分）【資・調・教】

- ・屋久島，種子島，奄美大島において，資料収集等を実施

○博物館活動による資料収集事業【資・調】

〈動物〉

- ・鹿児島市，南さつま市，南九州市，枕崎市，始良市，霧島市，いちき串木野市で野鳥の映像資料収集
- ・奄美大島で両生類の映像資料収集

〈昆虫〉

- ・鹿児島市，霧島市，伊佐市，十島村(中之島，宝島)，屋久島町(屋久島)で昆虫調査

〈植物〉

- ・喜界島で海浜性植物の資料収集

〈地質〉

- ・三島村黒島で地形映像資料収集
- ・種子島で地形映像資料
- ・岩石資料収集
- ・鹿屋市で岩石資料収集

〈天文〉

- ・奄美市で紫金山・アトラス彗星観察及び撮影
- ・鹿児島市でふたご座流星群観察

○「トカラの自然」事業（十島村と連携）【資・調・展・教】

- ・宝島，中之島，口之島において資料収集及び出前授業を実施
- ・村営船内企画展，自然観察会を実施

○郷土の星座伝承新発見事業【資・調・展・教】

- ・種子島，屋久島，黒島，喜界島，奄美大島において星にまつわる伝承文化の資料収集
- ・企画展，講演会を実施
- ・鹿児島市，日置市，霧島市において星空観察会を，屋久島町，瀬戸内町，喜界町において出前授業を実施実施

○館外機関との連携・協力【展・教】

- ・連携協定を結んでいる錦江湾高校や甲南高校，鹿児島中央高校において，課題研究発表会（校内）での指導助言や当館での課題研究ポスターの展示などを実施
- ・鹿児島地方第2合同庁舎において，第10管区海上保安本部・鹿児島地方気象台・自衛隊鹿児島地方連絡本部と合同で，火山防災に関する企画展を実施。
- ・鹿児島大学農学部と連携して，科学教室「セミの羽化をみよう」を実施。

○プラネタリウム番組制作【資・教】

- ・年4回，季節にあわせたプラネタリウム番組を制作
- ・季節の星空案内，創作星物語，特集の三部構成
- ・創作星物語は，ギリシャ神話や郷土の伝承をもとにした作品やオリジナル作品を制作

○企画展【資・展】

- | | | | |
|--------------------|--------------|---------------|--------------|
| ・「シン・サクラジマ」 | 3/23 ～ 6/ 2 | ・「チャレンジ理科研究」 | 6/22 ～ 9/ 1 |
| ・「あざとい植物」 | 6/29 ～ 9/ 1 | ・「蔵出し 大隅半島」 | 9/28 ～ 11/24 |
| ・「理科に関する研究記録・課題研究」 | 10/6 ～ 12/22 | ・「いっぺこっぺ湿地」 | 12/21 ～ 2/23 |
| ・「鹿博プラネタリウム物語」 | 1/11 ～ 3/23 | ・「ジオパークへ行こう！」 | 3/22 ～ 6/ 1 |

※ 事業の種類：【資】資料の収集・保管，【展】展示，【調】調査・研究，【教】教育普及

「トカラ列島の自然」事業

1 デジタルミュージアム「トカラ列島の自然」事業の概要

鹿児島県立博物館（以下、当館）の機能強化を図るために、蓄積された自然史資料、今回は特にトカラ列島の昆虫標本の一部を最新技術によりデジタル化し、県内外にトカラ列島の自然についての発信を行いました。なお、本事業は、文化庁の令和6年度博物館機能強化推進事業（Innovate MUSEUM事業）の助成を受けて実施されました。

2 事業の経過及び成果

(1) 博物館収蔵資料のデジタル化

近年トカラ列島から発見された新種や天然記念物、希少種等を含む昆虫と脊椎動物の標本、はく製をもとに制作したデータは次のプラットフォームで公開しています。

・ 3Dモデルデータ：Sketchfab

・ 2D画像：OpenPhoto

(2) 県民や十島村民に向けた教育普及活動

当館が収蔵する自然史資料やデジタル資料を用い、下記の活動を実施しました。

・ 十島村で大学講師及び本館職員による自然観察会の実施

・ 十島村立義務教育学校における出前授業

・ 村営船フェリーとしま2内で移動博物館

「島を旅する博物館」の実施

なかなか博物館に来ることができない遠隔地や高齢者の方々等と博物館を結び、居住する地域と鹿児島県の生物多様性、自然の豊かさを紹介しました。今後も県内の様々な地域課題に対応できる博物館として展示活動と教育普及活動の新しい方向性を模索していきたいです。

郷土の星座伝承新発見事業

当館プラネタリウム室では、オリジナル番組の中で、郷土に伝わる星物語や星の和名などを紹介しています。今年度は、郷土の星にまつわる伝承文化の資料を新たに収集し、それらをもとに出前授業や企画展を実施しました。

(1) 天文に関する伝承文化の資料収集



収集した伝承「お天道様の嫁」

種子島、黒島、喜界島、奄美大島、屋久島において、星にまつわる伝承文化の資料収集を実施しました。各地において、これまで当館が把握していなかった伝承文化について、多くの資料を収集することができました。今回得た資料をもとに、今後も郷土に根ざした番組制作を行っていきます。

(2) 小中学生を対象とした出前授業

県内4市3町9校に天文担当の学芸主事が出向き、収集した資料をもとにした伝承文化の紹介や天文、宇宙開発に関する授業を実施しました。子どもたちが、宇宙や郷土に興味や関心をもつきっかけになれば幸いです。

(3) 企画展「鹿博プラネタリウム物語」



展示のようす

当館プラネタリウムの歴史を振り返るとともに、本事業の成果を紹介しました。今後も、プラネタリウム番組や展示、星空観察会などの教育普及活動をとおして、本事業で得た成果を紹介していきます。

<城山ホテル鹿児島との連携>

県立博物館は、令和5年10月1日に城山ホテル鹿児島(城山観光株式会社)様と連携協定を締結しました。新博物館法で定められた地域の多様な主体との連携に基づいたもので、城山の自然について情報共有等を図るとともに、相互のスキルやコンテンツを活用した相互研修を行うことで、互いの職員の資質向上を図っています。

【城山ホテル鹿児島の講師による接遇研修】

令和6年1月と11月、接遇や人材育成に長けた職員の方を講師に招いて、来館者へのおもてなしやマナーなど接遇に関する研修を実施しました。実例を挙げながら分かりやすく説明をしてくださるだけでなく、実際の現場を想定したロールプレイも体験することで実践力の向上を図りました。特に、11月の研修では、近年増加傾向にある外国人の方々に対応するため、インバウンドの特徴、異文化の特徴、おもてなしの心構え、緊急時の誘導方法をはじめ、受付対応ロールプレイを体験するなど、充実した研修となりました。スキルアップした職員のおもてなしに期待してください。



【当館職員の城山ホテル鹿児島への講師派遣】

令和6年3月、城山ホテル鹿児島の新入社員研修の一環として、当館学芸主事が当館展示物の説明と、城山の森にある自然環境や生息している動植物などに関する研修の講師を務めました。参加された方から、鹿児島並びに城山の森の魅力を知ることができた学びの深い時間となったとのご意見をいただきました。これから城山ホテル鹿児島を担っていく方々の一助となれば幸いです。

<移動博物館事業>

毎年、離島部と特別支援学校において、移動博物館事業をおこなっています。

【奄美大島】(令和6年10月17日～10月20日)

4市町村(龍郷町・奄美市・大和村・宇検村)との共催で、大和村体育館を会場として実施しました。シカやイノシシなどの鳥獣や世界の昆虫、植物、化石など5,000点を超える剥製や標本を展示し、奄美大島の豊かな自然を紹介するコーナーも設けました。また、奄美博物館の学芸員である平城達哉さんの写真展(奄美の動植物を掲載)もおこないました。平日は授業の一環として、町内の小中学校の児童生徒が観覧に訪れたり、休日は家族連れでの観覧があったりして、期間中、延べ3,828人もの利用者で賑わいました。



開場式の様子

【鹿児島盲学校】(令和6年11月21日)

体育館を会場に、133人の児童生徒、教職員のご来場をいただきました。会場には、剥製や標本など、約900点を展示したほか、液体窒素を用いた演示実験「とほうもなく冷たい世界」や、博物館で飼育しているアオダイショウにタッチするコーナーを設置しました。皆さん、思い思いに会場の展示や体験を楽しんでいただき、鹿児島の自然や生物、博物館を身近に感じていただいたようでした。



学芸主事による演示実験

企画展を通して

今年度は、例年より1つ多い8つの企画展を実施しました。そして、今年度もたくさんの方に来場していただきました。

そのなかで、私が担当した企画展「あざとい植物」であった出来事を紹介します。

この企画展は、植物が次の世代に生命をつなぐために昆虫や動物、そして他の植物を利用する様子を紹介し、植物の奥深い魅力を伝えたいという思いで企画しました。

具体的には、他の生き物からだの一部を取りこませ、養分や水分を横取りするヤッコソウのような寄生植物や、虫を消化して栄養分を吸収するモウセンゴケのような食虫植物などを紹介しました。

企画展も終わりに近づいていたある日、「これは、あざとい植物でしょうか？」というメールが博物館に届きました。差出人は、夏休みに企画展に来てくれた男の子でした。夏休みの宿題として、自宅の周りであざとい植物を探し、まとめ、自分の友だちに身近なあざとい植物を教えてあげようと思っているということでした。この企画展がきっかけとなり、植物に興味を持ってくれたということで、担当者としてとてもうれしい気持ちになりました。

これからも、来場された方の心に届くような企画展を企画していきますので、楽しみにしていただければと思います。



企画展「あざとい植物」の展示のようす

学芸室の窓から

学芸室の窓の鍵は固い。鍵を開閉するのも一苦労だ。だが、この窓から吹き込んでくる風は季節を感じさせてくれるので、私は好きだ。

本館は、昭和26年（1951年）に竣工落成され、74年が経つ。当時の名残が随所に見られる、趣のある建物であり、平成20年に国の登録有形文化財として登録されている。

学芸室においては、今年もことあるごとに熱風を感じた。学芸主事のそれぞれの想いが交錯し、結果生じた熱風である。しかし、その熱風は、イベントが終わるごとに涼風へと変わる。清々しい。学芸室の窓の固い鍵を開けると、涼しい風が吹き込んでくるあの感覚と同じだ。

歴史と伝統は、どちらも長い時間の経過という点では似ている。二つの言葉の決定的な違いは後輩（後継者）を育てているかどうかにある。『伝統産業』や『伝統行事』という言葉があるように、『伝統』には、後輩（後継者）を育てるという意味が込められている。しかし、『歴史』にはそれはない。イベントや業務を遂行するに当たっては、先輩は後輩にこれまで学んだ全てを伝える内容にし、後輩は先輩の姿を心に焼き付ける。それぞれが伝統を築き、先輩方から受け継がれてきた博物館はさらに魅力あるものになっていく。

今日も優しい風が学芸室の窓から吹き込んできた。Nさんの優しい風だ。私は、彼女から、来館された方が気持ちよく入館できるよう、毎朝、エントランスから清掃し、次に学芸室横の除草をされることを聞いた。ひっそりと他人のために奉仕するNさんの心根の美しさに心が震えた。そしてNさんに代表されるような優しさと思いやりをもった職員の方々と、同じ職場で、同じ時間を過ごしていることを嬉しく思った。

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号
TEL 099-223-6050 FAX 099-223-6080

ホームページ <https://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>